



# 帯状疱疹って、 予防できるの？

名古屋大学大学院医学系研究科皮膚科学分野 教授 秋山 真志

企画：  
日本医師会

No. 599

## 帯状疱疹ってどんな病気？

帯状疱疹は、水痘・帯状疱疹ウイルスによる感染症で、初めて感染すると、水ぼうそう(水痘)を発症します。水ぼうそうが治った後も、ウイルスは体の奥の神経節に潜伏感染し続け、何かのきっかけでウイルスの一部が再活性化して、体の一部に小さな水ぶくれをたくさん作り、痛みを伴うのが帯状疱疹です。

治療は、内服あるいは点滴の抗ウイルス薬がいくつかあります。治った後も、水ぶくれができた部位に帯状疱疹後神経痛が長く残ることがあり、症状がひどかった人や高齢者では、その頻度が高くなります。



## ワクチンによる帯状疱疹の予防

日本では2025年度から、帯状疱疹ワクチンは公費負担(一部自己負担あり)で接種を受けられる定期接種となり、基本的に65歳を迎える方が対象となっています。2025年度から5年間は経過措置として、その年度に70、75、80、85、90、95、100歳になる方も定期接種の対象となります。これをキャッチアップ接種と言います。

定期接種の他に、50歳以上の方等を対象として、帯状疱疹ワクチン接種を公費助成する自治体が増えています。自治体によって、助成額、ワクチンの種類や対象年齢が異なります。

帯状疱疹ワクチンには、かなりの予防効果が認められています。現在、日本では、2種類の帯状疱疹ワクチン(表)が接種可能ですが、接種するかどうか、どちらのワクチンにするかは、有効性や安全性(副反応)、費用も含めて比較検討して、かかりつけ医に相談して決めましょう。



表 日本で接種可能な2種類の帯状疱疹ワクチンの比較

ワクチンの種類	生ワクチン	組換えワクチン
接種回数・投与方法	1回・皮下注射	2ヵ月以上の間隔で2回・筋肉注射
帯状疱疹の予防効果 (接種後5年時点)	40%程度の予防効果	90%程度の予防効果
副反応(発現割合)	接種した部位の反応 発赤(30%以上)、かゆみ、熱感、はれ、痛み(10%以上)	接種した部位の反応 痛み(70%以上)、発赤(30%以上)、はれ(10%以上)
		全身反応 疲労感、筋肉痛(30%以上)、発熱、頭痛(10%以上)
接種を受けられない方 接種にあたり注意が必要な方	免疫抑制状態*にある方は、接種を受けられません。	免疫抑制状態*にある方は、接種にあたり注意が必要です。

\*: 病気や治療により免疫機能が低下している状態

日本医師会LINE公式アカウントでは、健康に関する情報やプレゼント企画を定期的に配信しています。

友だち募集 友だち登録をお願いします。LINEの友だち登録にはLINEアカウントが必要です。LINEアカウントの作成方法は、LINE公式サイトをご覧ください。

